News Letter

AQSIS

N° 01
2022年7月

セネガル国看護師・助産師の臨床実習の質向上プロジェクト

AQSISプロジェクト始動

「セネガル国看護師・助産師の臨床実習の質向上プロジェクト（通称：アクシス（AQSIS））」が2022年4月に開始しました。

セネガルでは、より実践的な教育を行うコンピテンシーアプローチ（APC）が2014年に導入されました。しかし、2020年に行われた全国統一国家試験の合格率は、看護師が17.39%、助産師が6.68%と低い水準にとどまっています。この原因の一つとして、臨地実習で十分な技術練習ができず、理論と実践の2つのパートに分かれる国家試験の実践パートに合格できない学生が多いことが挙げられます。

より技術の高い保健人材を養成するため、AQSISでは、保健人材養成校と保健医療施設の連携強化や実習の規則・教材の標準化をとおして、看護師・助産師の臨地実習の実施体制の強化および質の向上を目指します。プロジェクトをとおして得られたグッドプラクティスは、同様の課題を抱えるセネガル国内の対象州以外の地域や近隣の仏語圏諸国にも共有する予定です。

2022年5月24日には、ダカール市にてプロジェクトの開会式として「キックオフセレモニー」が開催されました。保健社会活動省官房の技術顧問、人材局長、ティエス州医務局長が議長を務め、プロジェクトの概要が関係者に共有されました。その後、セネガル側、日本側のスピーチが行われ、プロジェクトの開始が宣言されました。

キックオフセレモニーには75人の関係者が参加した。

AQSISプロジェクトのキックオフセレモニー後の集合写真。

保健社会活動省人材局長（プロジェクトマネージャー）へのインタビュー

プロジェクトマネージャーとして、3年間のプロジェクト活動に、どのようなことを期待しますか？

看護師と助産師のパフォーマンスを上げるために、プロジェクトには非常に多くの希望を抱いています。まず、我が国の保健システムの中でより良いコンピテンシーアプローチ手法を効果的に実践・活用することが挙げられます。また、学生が保健医療施設内で行われる業務に慣れ、実情をよく知る機会を得るために、十分な研修環境を提供することが必要です。これらを実現するため、プロジェクトには多くの期待をしており、目標が達成されることを願っています。

看護師と助産師の臨地実習に関し、実習の改善に向けてどのようなことが課題と考えますか？

臨地実習には多くの課題があります。まずは、看護助産の臨地実習の効果的な改善につなげるために、これまでのプロジェクトを評価し、その教訓を効果的に活用することが重要です。さらに、現在行われている国家保健社会開発学校建設プロジェクトと連携しながら、本プロジェクトをとおして、看護助産学生が、保健ポスト、保健センター、病院の現状についてより良く理解できるように学習・指導方法を考える必要があります。具体的な課題としては、地方における人材の不足が挙げられます。なぜなら、住民が最初に接するのは地方で働く看護師・助産師だからです。また、国家試験の合格に向け、臨地実習を行う際の指導の質の改善も必要です。実際、国家試験に合格する学生が非常に少ないことは大きな課題です。これは、学生が臨地実習前に養成校で受ける演習や実習の指導の質とも当然関係しているのです。こうした問題は、とりわけ私立養成校において深刻であることを認識しなければなりません。なぜなら学生を育成する養成校は、公立よりも私立の方がはるかに多いためです。このように、継続的に支援してくださるJICAと連携しながら、人材局としてこれらの非常に重要な課題を改善していきたいと心から思っています。

アワ・ファール・ジャニュ
保健社会活動省人材局長

養成校の先生、臨地実習の指導者、看護師及び助産師を目指す学生へのメッセージをお願いします。

誰も自分一人で仕事を遂行することはできないため、連帯することが不可欠です。そのため、保健医療関係者の皆さんには、激励の言葉と、我々に課せられた課題を解決するために力を貸してほしいと呼びかけたいです。学生の皆さんには、日々の学習に対する幸運を祈ります。それとともに、より良い看護師、助産師になるために、実習の質を高めることが非常に重要で、それを実現することは簡単なことでないことをご理解いただきながら、真剣に実習に取り組んでいただくようお願いしたいと思います。

貴方の仕事を特徴づけるスローガンのようなものはありますか？

スローガンというのはありませんが、私なりの言い方をすると、人々の話を聞くこと、理解すること、皆で力を合わせて働くこと。これらが私の信条です。

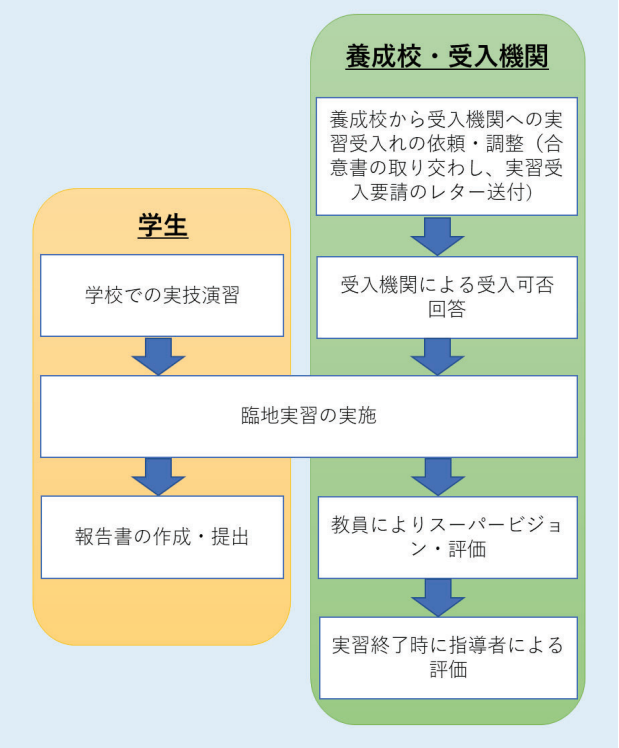
プロジェクトのキックオフセレモニー。写真は（左から）議長を務めた保健社会活動省官房技術顧問、ティエス州医務局長、セネガル側のプロジェクトリーダーである人材局長、JICAセネガル次長、JICA保健行政アドバイザー。

セネガルにおける看護師・助産師の臨地実習の現状とその課題

セネガルの看護師・助産師教育は、西アフリカ保健機関（WAHO）が作成したカリキュラムに則り、公立養成校10校、私立養成校約100校で実施されています。学生は、3年間で病院、保健センター、保健ポストで技術を習得するため複数回の臨地実習を経験します。

臨地実習の実施は右図のようなプロセスで実施されています。学生は、保健医療施設での技術の実践のため、養成校で技術演習を行ってから臨地実習に移ります。実習後は、成果をまとめるため報告書を作成します。一方、養成校は受入機関である保健医療施設と臨地実習の内容を調整し、学生受け入れのための合意書の取り交わしや実習指導者である医療従事者との調整を行い実習の準備をします。実習中は、教員はスーパービジョンを行い、実習が予定通り進むようサポートします。また実習後には、教員と実習指導者による学生の評価が行われます。

しかし、このプロセスに関連した様々な課題があります。例えば、養成校と受入機関間の調整方法が標準化されていない、関係者の役割について明確な規定がない、養成校と受入機関の対応が多岐に渡り実習の質が確保できない、養成校ごとに異なる教材を使っているため実習指導者が教材の効果的な利用ができない、リソース不足によりスーパービジョンが行えない、統一した評価基準がない、などの課題があります。また、学生も養成校での演習が十分に行えず、技術が不十分のまま臨地実習を実施している現状があります。これらの課題を解決し、臨地実習の質を改善することが本プロジェクトに求められています。



臨地実習の実施プロセス

プロジェクトの概要

プロジェクト活動は、2022年から2025年の期間で直接介入州であるダカール州とティエス州で実施されます。保健社会活動省事務次官（プロジェクトダイレクター）、人材局長（プロジェクトマネージャー）のもと、人材局研修課がプロジェクトを実施します。

セネガル14州と直接介入州（★）

上記の課題解決のため、養成校と受入機関である保健医療施設の連携強化（成果1）、臨地実習に使用する教育ツールの標準化（成果2）、を通じて、臨地実習の質の改善を目指します。さらに、他の仏語圏アフリカとグッドプラクティスを共有し（成果3）、その知見を活かしてセネガルの臨地実習の実施体制をさらに強化し、実践力のある看護師・助産師の育成を目的としています。

プロジェクトの概要

上位目標	セネガルの看護師・助産師養成校が実施する臨地実習の実施体制が強化される
プロジェクト目標	直接介入州の養成校が行う看護師・助産師教育における臨地実習の実施体制が強化される
期待される成果	成果1: 直接介入州における教育機関と医療施設の連携が強化される 成果2： 教員及びインストラクターが、臨地実習の実施体制に関して訓練を受ける 成果3: 国内及び近隣諸国と臨地実習運営実施に関するグッドプラクティスと経験が共有される
対象州	ティエス州、ダカール州
期間	2022年4月～2025年4月

2022年6月までの活動進捗

1. 情報収集ミッション

看護助産学生の臨地実習に関する課題の把握のため、5月9日から16日にかけて、関係者へのインタビューや簡易アンケートを実施しました。人材局研修課、州医務局、州保健研修センター職員、プロジェクトからメンバーを募り、3チーム（ダカール1チーム、ティエス2チーム）の調査団を構成し、調査を実施しました。

2州の合計で、養成校12校（大学1、公立1、私立10）、保健医療施設17カ所（病院4、保健センター7、保健ポスト6）を訪問し、施設管理者、教員、臨床指導者と面談しました。さらに、グーグルフォームを用いたアンケート調査を実施し、教員29人、臨床指導者75人、学生813人から回答を得ることができました。

調査の結果、養成校と保健医療施設間に複数の調整方法が存在することや、過剰な学生数の受け入れにより、指導の質が下がっていること、様々な評価グリッドが存在し、臨床指導者の評価が統一されていないなど、臨地実習が現在抱えている課題が明らかになりました。

ティエス州病院にて関係者に聞き取りを実施している様子。

養成校における演習の様子も視察した。

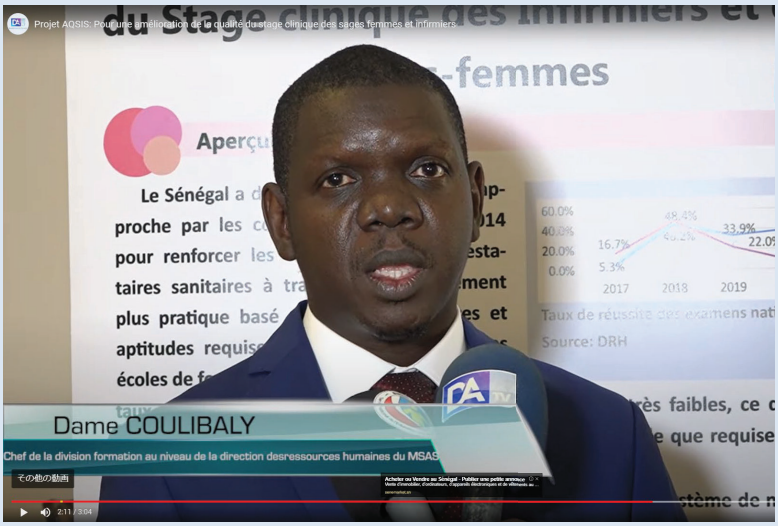
2. キックオフ及び課題抽出ワークショップ

5月24日、25日には、キックオフおよび課題抽出ワークショップを開催しました。保健社会活動省関係者や州医務局、保健区、養成校関係者、開発パートナーなど計75人が参加しました。

キックオフセレモニーでは、プロジェクト概要と情報収集ミッションの分析結果のプレゼンテーションとともに、開会のあいさつがなされました。

その後の課題抽出ワークショップ（1日目午後～2日目）では、人材局研修課、ティエス州保健研修センター校長より、情報収集ミッション結果のプレゼンテーションがあり、ミッションで明らかとなった調整方法や、教材、スーパービジョン・モニタリングに関する課題が参加者に共有されました。その後、参加者は３グループに分かれて、臨地実習における①調整、②教材、③スーパービジョン・モニタリングの抱える課題について協議しました。

グループワーク後の結果共有では、参加者から、養成校と受入機関の調整のため、国・州レベルの協議枠組みの設置、受入機関のフォーカルポイントの設置、実習計画の策定、学生受け入れの基準の明確化などが提案されました。



キックオフセレモニーでは、6メディア（新聞(2)、ウェブジャーナル(3)、保健省Facebook)による取材があった。写真は人材局研修課長へのインタビューの様子。

また、実習ノート、ポートフォリオ、評価グリッドなどの教材の統一化、スーパービジョンガイドや実習指導マニュアルを策定し、定期的にスーパービジョン・モニタリングをする仕組みの確立についても提案されました。

これらの提案を受けて、今後、プロジェクトでは、関係者と協議を実施しながら活動計画を策定していきます。